



# 県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

## 腎臓内科

## 腎臓病の種類と特徴 “治る腎臓病”と“治りにくい腎臓病”

腎臓の病気は「慢性腎臓病(CKD)」と「急性腎障害(AKI)」の2つに分類されますが、実際には様々な症状が様々な程度に起こります。そして病気の原因や状況(病態)によって、“治る腎臓病”と“治りにくい腎臓病”があります。

どちらのタイプの腎臓病かを認識し、適切な治療と日常生活の管理を心がけましょう。

### ① “治る腎臓病”

急性の腎臓病は発症が急激で症状も強いものが多いですが、治療により改善する病気も多いです。子供さんにみられる「急性糸球体腎炎」や、脱水症が原因で起こる「急性腎不全(腎前性腎不全)」は“治る腎臓病”の代表です。また、一次性ネフローゼ症候群の中で「微小変化型ネフローゼ症候群」、慢性糸球体腎炎の中で「IgA腎症」は、長い期間をかけて治療を行うことで、薬を飲まなくても症状がみられなくなる患者さんが多くおられます。

但し、“治る腎臓病”であっても治療を中断したり再発を繰り返したりすることで“治りにくい腎臓病”へ移行します。適切な時期に適切な治療を行うことと、日頃の体調管理や感染予防が重要です。

### ② “治りにくい腎臓病”

慢性に発症し自覚症状なく経過する腎臓病は“治りにくい腎臓病”の場合が多いです。「糖尿病性腎症」「腎硬化症」がその代表です。また「多発性嚢胞腎」などの遺伝的原因や、「難治性ネフローゼ症候群」「急速進行性糸球体腎炎」「アミロイド腎症」などの“指定難病”は決定的な治療法がなく、末期腎不全への進行を阻止することが治療の目標となります。

“治りにくい腎臓病”であっても、病状の早期であれば、治療の継続と適切な生活管理により末期腎不全、透析への進行が抑制できる場合も多々あります。特に「糖尿病性腎症」と「腎硬化症」は発症予防が最も重要であり、進行阻止も十分可能です。

私たちと一緒に根気強く治療を続けましょう。

(腎臓内科 部長 縄田 智子)



## 耳鼻咽喉科

## アレルギー性鼻炎と舌下免疫療法

## アレルギー性鼻炎

アレルギー性鼻炎は、アレルギーの原因となるもの(アレルゲン)により、くしゃみ・鼻みず・鼻つまり・眼のかゆみなどの症状を呈する疾患です。スギ花粉症はアレルギー性鼻炎に含まれます。ハウスダストやダニのアレルギー性鼻炎は通年性に症状があり、スギ花粉症は初春(大分では2~3月)のみの症状です。

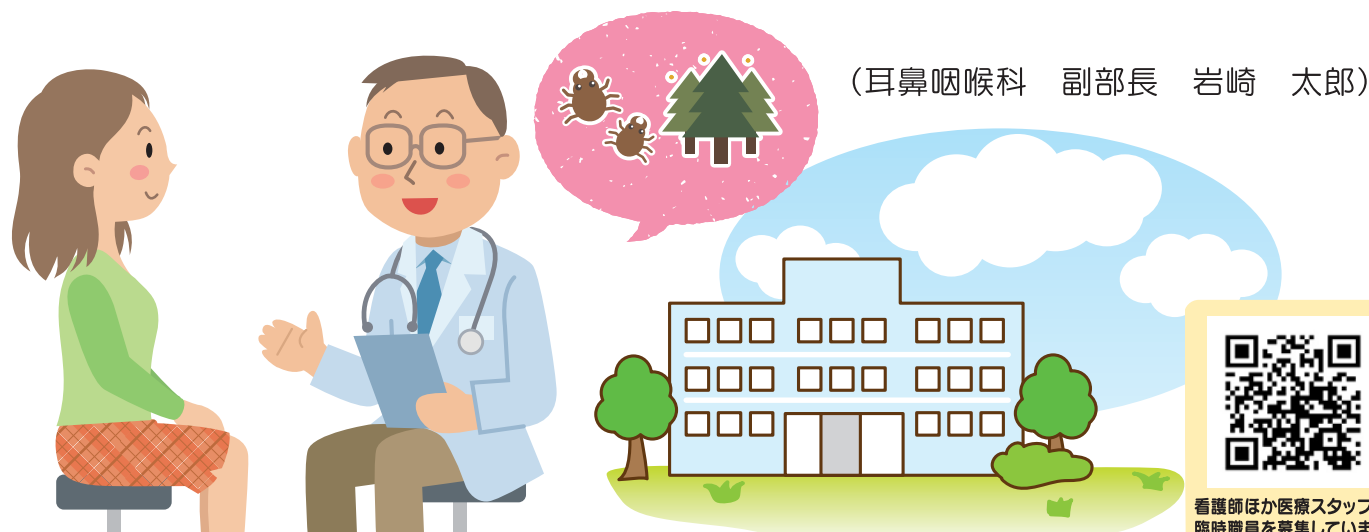


## 舌下免疫療法の登場

減感作療法とも呼ばれるアレルゲン免疫療法という治療があり、アレルギーの原因である「アレルゲン」を少量から投与することで、体をアレルゲンに慣らし、アレルギー症状を和らげる治療法です。アレルギー症状を治す可能性のある治療法と考えられており、日本では、注射による方法が1960年代から行なわれていました。注射による方法では、治療開始後しばらく頻回の通院が必要であり、毎回注射の痛みがあります。

舌下免疫療法は、注射による免疫療法の欠点を改善した新しい治療法として2014年にスギ花粉症で初めて保険適応となりました。さらに、ダニのアレルギー性鼻炎にも2015年に保険適応となりました。

具体的には、1日1回、毎日自宅で治療薬の錠剤を舌下(舌の裏)に置き、その後に飲み込みます。短期間の治療ではなく、1~2年間での効果を確認し、効果があれば合計3年以上の治療が推奨されています。短期間で治療を終了すると、治療終了後の効果が持続しないと考えられています。また、アレルゲンを投与することから過剰なアレルギー反応が起こる可能性もありますが、アレルギー症状の緩和や内服薬の減量・中止などの効果が期待できます。舌下免疫療法に興味のある方は耳鼻咽喉科までご相談ください。



(耳鼻咽喉科 副部長 岩崎 太郎)

看護師ほか医療スタッフの  
臨時職員を募集しています。  
詳しくはこちら